

## 第6回竹島問題研究会 開催概要

平成23年2月6日(日)

14:00～17:00 島根県職員会館

(欠席)内田委員、岡委員、中野委員、塚本協力員

### 1. 座長あいさつ

- 1月、竹島北西1kmの海域に総合科学基地建設のために工事発注を近く行う旨、韓国側の報道があり、質問主意書を通して政府の認識を問うたところ、事の重要性を認識していないのか淡白な姿勢が示された。
- 今後、韓国政府と慶尚北道が一体となって韓半島東海岸の海洋開発を計画しており、総合海洋科学基地を認めれば、韓国の竹島占拠を既成事実化する動きが加速する。事態は切迫しており、危機感を感じる。
- 尖閣諸島の状況は、竹島と同じような経緯をたどっており、竹島問題で譲歩すれば尖閣諸島や北方領土などに悪影響を与えかねない。竹島も含め、領土問題を一括して扱う組織を政府内に設置すべきだ。

### 2. 調査活動の状況

- 次の項目について委員から資料が提出され、意見交換が行われた。
  - ・韓国国立中央図書館所蔵の竹島問題関係資料(1947年以降)について
  - ・歴史科学協議会第44回大会(22.11.20開催)について
  - ・「鬱島郡節目(1902年4月)」について

### 3. 中間報告書の原稿確認について

- 第5回研究会後、メールによる意見調整のできなかつた事項について、改めて意見交換がなされた。
- その結果、提出された意見や合意事項を踏まえ、各執筆者が原稿について修文を加えること、2月10日までに最終原稿を事務局に提出することで合意がされた。

### 4. 今後の研究テーマについて

- 事前に各委員から提出された意見を元に、座長、副座長で協議のうえ作成された「今後の研究活動案」について事務局から説明。その後、意見交換がなされた。
- その結果、次のとおり意見が集約された。
  - ・第1期研究会「最終報告書」や外務省「10のポイント」等に対する韓国側の批判について、しっかりと反論を加える。その際、韓国語や英語に翻訳し、積極的に日本側 or 島根県の立場をアピールしていくべき。
  - ・個別のテーマについては、研究の方向性や担当委員が概ね定まったが、詳細については今後詰めていくこととなった。なお、欠席委員については事務局から事情を説明し、協力を得ていくこととなった。
  - ・スケジュールについては提案のとおり、来年1月の最終報告書知事提出を目指し、進めていくこととなった。その間、3回程度の研究会を開催し、次回研究会は5月上旬に開催することとなった。

### 3. 副座長の交代について

- 杉原副座長から佐々木委員と交代したいとの申し出があったが、出席委員からは意見はなく、下條座長から佐々木委員に対し副座長の指名がなされた。